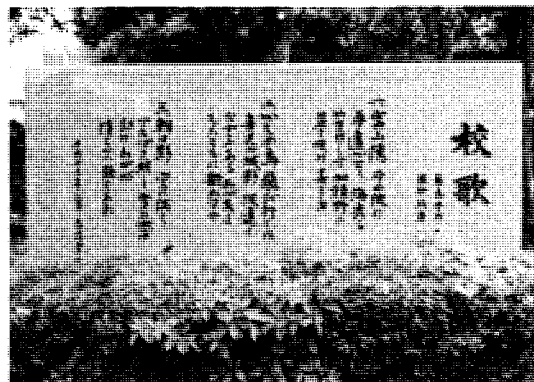


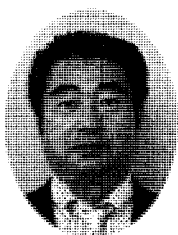
同窓

— 同窓会だより —

No. 112 (令和 4. 3. 1 発行)
富山県立魚津高等学校同窓会



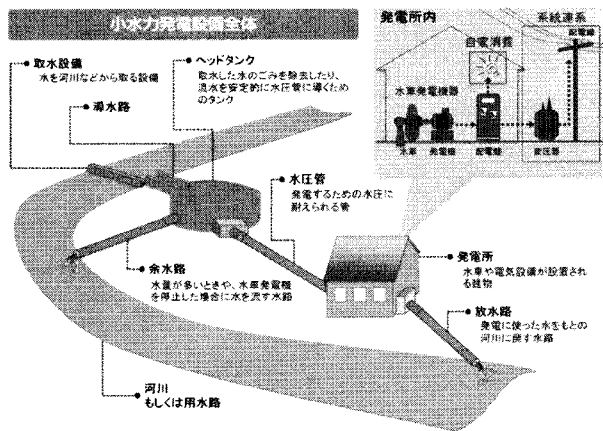
- 1 面 同窓生寄稿
- 2 面 同窓生寄稿
- 3 面 同窓生寄稿
- 4 面 同窓生寄稿、魚高生の活躍



「富山県朝日町笹川地区における 小水力発電プロジェクト」

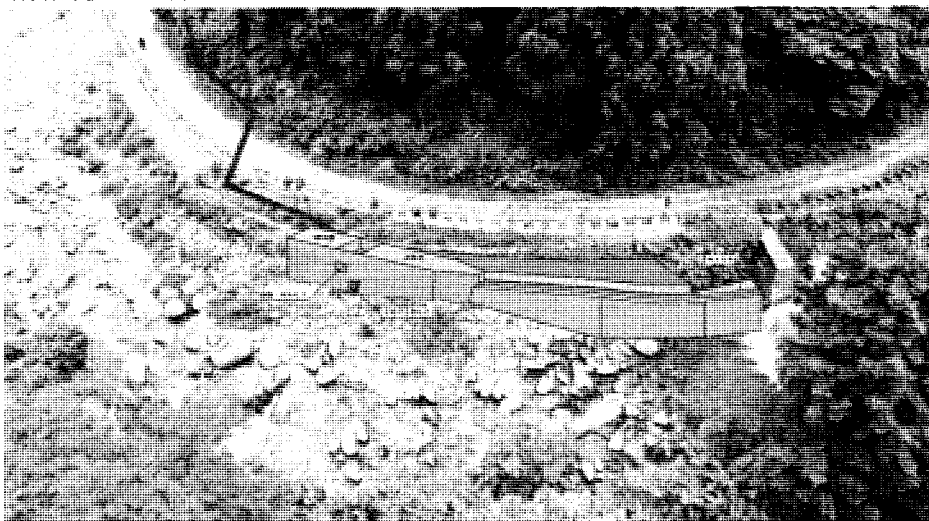
(株)深松組専務取締役北陸支店長 深松 隆 (魚高32回)

笹川水力発電 発電設備



過疎化や高齢化が進む地方では、社会インフラの維持が大きな課題となっている。笹川地区の小水力発電所プロジェクトは、新たなスキームで、地域のインフラを再構築するものである。富山県朝日町笹川地区は総人口250人足らず100世帯余りが住む高齢化率75%の過疎集落である。笹川自治振興会の管理運営する簡易水道施設の老朽化により数年後には水道水が使用不能になる可能性があった。しかし笹川地区独自の力では水道施設更新費用約3億円が確保できず、数年前から笹川地区の集落の維持ができなくなる可能性が顕在化していた。そこで弊社(株)深松組代表取締役社長深松努が、小水力発電の売電収入で集落の水道設備を更新する新たなスキームを考案した。

取水部周辺イメージ図



水力発電所
発電計画地イメージ図



水車及び誘導発電機の仕様

<水車> 設置イメージ



<発電機>
定格出力 : 199kW
電圧 : 440V
回転速度 : 1194rpm

水量	%	100	75	50	25
発電機効率	%	95.1	94.6	93.1	88.6
力率		0.85	0.83	0.75	0.52

本プロジェクトの特徴は、①小水力発電事業による再生可能エネルギーの固定買取制度(FIT)を活用しその売電収入で地域の水道施設更新費用を捻出する。②信託方式を採用し信託の倒産隔離機能により弊社が万一倒産した場合でも地域住民の方々に安定して水道が供給される事業スキームになっている。③水力発電所の管理業務の一部を笹川地区住民からなる一般社団法人へ発注することにより地域に新たな雇用を生み出すことが可能となります。また朝日町からは、簡易水道更新工事の一部補助、笹川地区住民から工事用地の提供、北陸銀行が融資の際に優遇利率を適用などのご協力もありました。

結びに、日本の地方には、笹川地区と同様に過疎地域の課題である老朽化したインフラ設備の維持が困難となる事態が予想されます。本プロジェクトが、地方のインフラを救い地方を活性化させるモデルケースとなることを願っております。

※笹川小水力発電所令和5年6月完成予定

充実したあの頃



北日本新聞社新川支社編集部
石川 雅浩 (魚高57回)

魚津高校を卒業したのは2005年3月。執筆にあたって過日を振り返ると、あつという間に17年が過ぎ去った印象だ。今は廃止となった理科で過ごし、大学卒業後に北日本新聞社に入社して12年が経った。

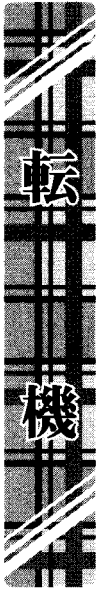
当時は野球部に所属し、甲子園出場は遠い夢に終わったが、仲間と一緒に目標に向かって切磋琢磨したことは、今なお人生のベースになっている。医療系大学を目指しながらも結局は関東のスポーツ系私大に進学し、「故郷の多くの人と接する仕事したい」と新聞社の門を叩いた。この間、社会・スポーツ担当記者のほか、営業部署では富山マラソンの運営やプロスポーツ球団の広告担当など、県民読者と共に夢や希望を分かち合う仕事に触れることができた。

昨夏には、東京五輪・パラリンピックを担当。県勢過去最多の10競技17選手を取材し、スケートボード・中山楓奈をはじめ、魚津市在住の車いすバスケットボール・岩井孝義、ボッチャ・藤井友里子の3選手のメダル獲得を目の当たりにした。2度目の東京開催、コロナ禍による1年延期、無観客試合…。賛否が渦巻く異例の祭典を報じた経験は貴重なものになった。ここ数年、文理選択を控える在校1年生を対象にした「進路探究」の講師を務めている。自身の仕事内容や職業選びの過程を話す中で、

大学進学で視野が広がることを伝え、「さまざまな社会経験を通じ、自分に合った職業に合うってほしい」とエールを送っている。

さて、昨年9月から新川支社の記者勤務となり、魚津を中心に5市町を回る。取材では母校関係者に会うことも多く、海外を含め県内外で活躍する同窓各位の姿に誇りを感じる。今後も新川エリアを盛り上げられるように力を尽くしたい。同窓の皆さまに取材させていただく機会があれば、ご指導いただけると幸いです。





廣川 知己 (魚高32回)

コロナ禍の最中、定年を迎えることになりました。母校に赴任して3年、教員生活の最後を母校の後輩達と過ごしたいと思つて出した異動希望が通り、今日を迎えています。

母校に赴任して、最初に感じたのは、なんている子達なんだろうということ。自分が魚高生だった頃は、ボンタン・長ラン・短ラン・リーゼントと、今では死語になった、いわゆる不良スタイルの生徒も多く、自分も含めて先生方の指導に素直に従わない生徒が少なくなかったように思います。勉強は好きな教科しかせず、バスケ部での活動も先輩達が引退し、自分たちの代になるまでは惰性でやっていました。

そんな私に転機が訪れたのは、高校2年の冬でした。県新人戦で優勝した本校バスケ部で一番身長が大きかった自分が、全日本ジュニアのメンバーに推薦され、3月に東京で開催される合宿に参加することになったのです。その当時ジュニア代表は毎年、ハワイ遠征を行っていたのですが、この年はなぜか中止になり、代替措置として招集人数を大幅に増や

して合宿講習が行われることになったようです。ラッキー？な私はこの増員枠に入ったようです。合宿には全国から30名ほどの選手が参加したものの、超強豪校の選手は母校の遠征を優先したため、雑誌に載るような選手は僅かしかいませんでした。それにも関わらず、参加した選手の中で183cmの私は、小さい方から数えた方が早いくらい小さく、技術も体力も全然ついていけません。この合宿の監督を務められたのは、後に私が進学することになった筑波大学の女子部監督である笠原成元先生でした。夜のミーティングでは、生まれて初めてバスケの専門的な講義を受け、自分がいかに、いい加減に取り組んでいるかを思い知りました。この出会いが、私の転機となりました。真剣に全国大会出場を目指して練習に取り組んだものの、練習不足には勝てず、春季大会、高校総体と県優勝を逃し、国体メンバーとしても北陸大会で敗れ、結局全国大会に出場がかなわなかった自分は、バスケに未練が残り、気がつけば学業成績は後に誰もいないほどボロボロ、高校入学時に志望していた獣医への道はもちろん、体育方面への進学も危うい状況に陥っていました。体育大会が終わり、受験しなくなると、はじめて開き直ることができました。この約3ヶ月が生まれてから一番、集中して勉強したと思います。人間、やればできるもんだと自信もつきました。

今、この学校に勤めて、高校時代を振り返る

と、恥ずかしいことや後悔することがたくさん思い出されます。60歳は還暦と呼ばれます。生まれた年の暦に還る、赤ちゃんに還るという意味があるようです。高校時代に「転機」を迎えさせてくれた、部活仲間、同級生、諸先輩、後輩達、先生方にあらためて感謝しつつ、思い出が詰まった母校から、新たな門出となるように、今後も精進していきたいと思えます。





高橋 尚美 (魚高31回)



今回、母校である魚津高校で教鞭を執る貴重な機会をいただきました。久しぶりに訪れた校舎は建て替えられていて、旧校舎で学んだ私の目には初めて訪れる学校のように映りました。ただ、講堂やグラウンドを見ると、高校時代の記憶がよみがえります。特に記憶に残っているのは、入学して間もない頃の校歌練習です。当時のバンカラな先輩方に優しく(?)指導され、すぐに校歌を覚えられました。あれから、色々な場面で校歌を歌い、そのたびに母校愛が深まった気がします。

そして、この魚津高校で恩師と出会いました。古典文法などの基本から趣深さまで教えていただきました。私も古典の面白さを教えたいと思いついて、国語教師を目指しました。教員になってから、月日はたちましたが、なかなか恩師のようにはいきません。ただ、母校への異動の話を聞いた時、亡き恩師が母校で教えてみるかと導いてくださった気がしてなりません。そこにご縁を感じ日々精進しています。



吉田 真 (魚高46回)



昨年4月、本校に「再入学」した。私が在学していた時から教室の配置が変わったり、蜃窓館が新たに建てられたりして、月日の流れを感じた。私が3年生の時に授業を受けていた教室は、今は選択教室となり、3年文系の地理Bの授業はこの教室である。自分がこの教室の教壇に立つとは28年前には想像していなかっただけに不思議な思いがする。

しかしながら、卒業してから28年経っても変わらないものがある。それは、「生徒の主体性」だと思う。コロナ禍の状況においても学校行事や部活動では自ら考え、主体的に行動する姿が随所に見られた。(特に、体育大会はすばらしく、「さすが魚高生」と感じた。)

間もなく赴任してから1年が経つ。今後も本校卒業生として後輩達への支援を通し、少しでも母校に恩返しができるよう精進していきたいと思う。

魚高生の活躍 (令和3年8月~令和4年2月)

○陸上競技部

- ・第26回富山カップ陸上競技大会
共通男子200m 2位 荒木 翔愛 (3-2)
- ・北陸陸上競技選手権大会
共通男子200m 2位 荒木 翔愛 (3-2)
- ・第58回富山県高等学校
新人陸上競技対抗選手権大会
男子砲丸投 4位 高山晋太郎 (1-3)
男子110mH 6位 浜守 光映 (1-1)

○卓球部

- ・令和3年度新川地区総体
女子シングルス 1位 柳川 優奈 (2-4)
- ・令和3年度新川地区冬季大会卓球競技
女子シングルス優勝 河村 歩美 (2-2)

○女子ソフトテニス部

- ・令和3年度ソフトテニス
新川地区総体 (金尾杯)
団体戦 1位
女子ダブルス 1位 森 有希 (2-1)
小峰 充智 (2-4)
- ・太陽スポーツ杯 第25回新川選手権大会
個人戦一般・高校女子の部
優勝 小峰 充智 (2-4)
森 有希 (2-1)

○剣道部

- ・新川地区高等学校総合体育大会剣道競技
女子団体 1位

○男子バレーボール部

- ・令和3年度北日本新聞社杯争奪新川地区
高等学校 秋季新人バレーボール大会
男子 優勝

○男子バスケットボール部

- ・令和3年度新川地区高等学校秋季新人
バスケットボール大会
男子 優勝

○カヌー競技

- ・第4回パラマウントチャレンジ
全国200m競漕(きょうそう)
女子カヤックシングル 2位
- ・令和3年度富山県高等学校
新人大会カヌー競技
女子カヤックシングル 500m
2位 晴被 葵 (1-3)
全国大会出場
北信越大会出場

○放送部

- ・第68回NHK杯全国放送コンテスト
朗読部門 入選 長谷川唯奈 (3-3)
- ・第33回富山県高等学校文化祭
放送部門発表会
朗読部門 優秀賞 濱元 開成 (2-3)
ビデオメッセージ部門 優良賞

○吹奏楽部

- ・第49回富山県吹奏楽コンクール
高等学校B部門 金賞

・第43回富山県アンサンブルコンテスト

- 新川地区大会
フルート三重奏 金賞・地区代表
木管三重奏 金賞
クラリネット四重奏 金賞
金管八重奏 金賞
- ・第56回富山県アンサンブルコンテスト
富山県大会
フルート三重奏 金賞

○将棋部

- ・第31回富山県高等学校将棋選手権大会
男子個人戦 5位 伊東 智慧 (2-2)

○書道部

- ・第61回魚津市美術展
書の部 佳作 中村 結香 (2-4)

○囲碁

- ・第47回秋季囲碁大会
上級戦 優勝 永田 大和 (1-3)
男子団体戦 優勝
女子個人戦 3位 千田 杏咲 (2-2)
- ・第37回北信越高等学校囲碁選手権大会
個人戦
男子A級 準優勝 永田 大和 (1-3)
男子団体戦 優勝

○令和3年日本歌人クラブ北陸ブロック

- 短歌大会兼第63回富山県短歌大会
地位 山本 翔子 (1-4)
人位 米山 蓮 (1-2)

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか? 自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地
TEL (0765) 22-0221
FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

http://uozu-dosokai.net/
魚津高校ホームページ
http://www.uozu-h.tym.ed.jp/